

取材対象：豊後大野市 NPO 法人しげまさ子ども食堂ーげんき広場ー 事務局長 首藤文江さん

日時：2023年4月22日（土）12:00-14:00

文責：大分大学福祉健康科学部 3年 森田帆南、2年 田中歩美

■しげまさ子ども食堂へ

取材先のしげまさ子ども食堂へ向かう道中、私たちはお話を伺う首藤さんのことや食堂の活動について話題にしていました。

「東京の子ども食堂を参考にして、夫婦で子ども食堂を始めたい」、「子どものために、日常的な暮らし・遊び・学習のサポートをして居場所づくりをしていて、プレゼンテーションや演劇など、子どもが専門家の指導をうけて、自分を表現する経験ができるみたい」、「NPO 法人の目標に、どのような環境に育っても子どもたちの未来は創り出せるとある」、「子ども食堂が核で、どう活動が広がってきたのかな」、「こんなに子どものために熱心に活動する首藤さんって、どんな人なのだろう？」



写真左：庭のツリーハウス。写真中央：しげまさ子ども食堂ーげんき広場ー。写真右：サイロの奥に山羊の畜舎。

約束の場所に近づくと、三角屋根の建物と農場のサイロが見えて、門を通り抜けると、切り株やツリーハウス、奥で山羊がのんびり草を食べているのが見えました。「わあ〜」ここはかつての農業高校の農場跡地で、私にとって初めての子ども食堂でしたが、想像していた小さな公民館のような場所とは全く違いました。「こんにちは〜、今日はよろしくお祈りします！」首藤さんに挨拶して靴を脱ぎ、食堂・厨房から学習室へ進みました。室内は明るくてカラフルで、木の床が心地よく、学習室には、こたつや電子黒板があり、普通のサイズの机やイスとは別に、小学校低学年ぐらいの小さな子どもが勉強しやすいような小さめのイスと机が用意されていました。初めて来たはずなのに安心して落ち着くことができました。



写真：左から順に、掘りごたつの空間、幼児に対応した机と椅子、青い壁の学習空間、黄色い壁のダイニングルーム。

■大丈夫、心配しなくても1人じゃないよと言ってくれる大人が近くにいてくれたら…

首藤さんは、自分の睡眠時間や食事時間を削って運営に取り組んでいます。なぜそこまで頑張ることができるのだろう、活動の契機から原動力について首藤さんに質問しました。契機や事業内容について、とても流暢に答える一方で、自分や子どもたちの話しになると、ときに言葉を探すように答えて下さいました。私はその様子を見て、質問されたくない内容だったのではないかと不安を感じましたが、後になって、大切なことを丁寧に説明

してくださっていることがわかり、安心しました。

首藤さんは、子どものころ悩んだり、不安になったりしている時に、いつも、「大丈夫、心配しなくても1人じゃないよ」と言ってくれる大人が近くにいるくれたら、、、と思っていたそうです。そして、「いつも素敵なお人に出会えると、子どもたちにつなげたい」と思うのだそうです。それは、素晴らしい世界がまだたくさんあるけど、このような体験に出会う機会が子どもたちに平等にあるわけではないから、「地域のおばちゃん目線になったとき、初めて子どもたちみんなが幸せを感じられる地域ではないと安心して暮らせないのでは…」とか、「地域が子どもの世界を広げられたら、どんなに素敵だろう」と思うのだそうです。この、子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくる為に何かできないか、TV で見たあの子ども食堂、私達夫婦で始められるかも…そんな気持ちから始まりました。そして、すごい！と思う人や体験を子どもたちに“つなげる”ことで、子どもたちの世界が広がる、子ども達に多くの体験を提供したい、という気持ちは、プレゼンテーションや舞台パフォーマンスという事業に展開しました。これらの体験をした子どもたちを、しげまさ子ども食堂の紹介動画や、舞台やTED の映像を見て、実際に子どもたちのエンパワメントの促進につながっていることがわかりました。

■どのような環境に育っても子どもたちの未来は創り出せる

首藤さんと子ども食堂の出会いは、TV で紹介された「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」。夫婦で「私達にもできるかも…」と思いたち、上京の機会に WAKUWAKU ネットワーク代表の栗林さんに相談したとのこと。その後、1年間は仕事や子ども食堂の進め方で悩み、もう一度栗林さんらの参加するイベントで同じ志を持つ人々に出会いました。そこで、「最近子ども食堂をやろうと決めた方で、数ヶ月後には始めて、実績を積み重ねている」ことを知り刺激を受け、栗林さんに、仲間を集める方法のアドバイスを頂き、地元に戻りました。子ども食堂を始めるにあたって、まず、首藤さんの思いや考えをチラシにまとめて伝え、同じ考えの方が集まってキックオフミーティングを開催しました。

その会では、県内で子ども支援をしている民間団体の活動を通して見える子どもたちの現状を紹介して、地域に住む自分たちに何ができるか、また新しく始める子ども食堂のありかたについて話し合いました。その結果、「子ども食堂を始めたい、子どもたちを地域で支えたい」という共通の思いや志を持つメンバーが集まりました。栗林さんの活動や思いを参考にしながら、何度も集まって地元で仲間と小さな実績を積み重ねる中で、2016年4月に任意団体でスタートし、2018年8月NPO法人の認定を取得し、その目標を「どのような環境に育っても子どもたちの未来は創り出せる」としました。これは、子どもへの支援を進める上での原点となっています。

■人とつながり、自分を見つめ直す時間をつくる

首藤さんは、子どもの頃、親に認めてもらいたいという気持ちを持っていたそうです。声に出して自分のしたいことを親や周りに言うてはいたけれど、本当は自分がしたいことが分からない。発言していることと行動していることが違うという矛盾に苦しめられていました。あの時に、親と子どもは違う存在だと言ってくれる大人がいてくれたらどんなに救われただろうと大人になって感じました。その経験を踏まえて、現在、自分が親ではない大人の立場として子どもたちに親の人生と子どもの人生は別であると伝え続け、子ども食堂等の様々な活動で親ではない大人と子どものつながりを広げることが大切だと考えています。

首藤さんのお話から、子どもたちの未来のために人とのつながりを大切にしたいという気持ちを強く感じました。しかし、そのつながりの中心がしげまさ子ども食堂である必要性はなく、他の団体や機関がより適切であれば、他の団体が主体となって活動を行うべきだとのこと。社会全体で対等なつながりを作ろうという想いを感じました。

その後も様々な挑戦のお話を伺う中で、その行動力に驚いていると、「私は他の人より、恥ずかしいだとか、貸しをつくるとかいうハードルが低いというか、思ったことを相手に「やってみない？」と話してみるところがあるんです。」「私ではない誰かがこの活動をしていたとしても同じようにはならない。もっと大きくできた人も

いたかもしれないし、私じゃないとできないというわけではない」と話してくださいました。

その中で、印象に残ったのは、NPO が取り組む「地域が HOKORI ひろがる子どもプロジェクト」という活動です。舞台パフォーマンスやプレゼンテーション指導など、子どもたちがたくさんの経験ができるような活動があり、そこで子どもは多くの人との「出会い」を体験します。首藤さんはこの、「経験」や「体験」、「大人」を子どもに繋げる役目をしています。プレゼンテーションや舞台パフォーマンスでは、継続的に指導者の方から指導を受け、何度も何度も話し合い練習をしながら本番のステージへと立ちます。この期間に子どもは自分を見つめ直し、指導者の方との対話を通して、新たな自分と出会えたり、自分が憧れる大人像ができたり、夢を持つ機会にもなります。このような体験は、子どもの成功体験を積み、エンパワメントを促進すると考えられます。

■地域で縁をつなぐ地域共生社会

首藤さんの活動の原動力は、子どもに対しての愛情や思いが人一倍強いことではないかと思いました。そして、頼み上手で、声をかけて答えてくれた方への借りは本気で返し、同じ志を持つ多くの人々から支えられていること、子どもが持つ可能性を信じ、様々な活動を経験させたいという思いがあることです。その思いが子どもたちに好影響を与えるだけでなく、まわりの大人の心を動かし、地域住民や行政、企業と共生して地域ができていくと感じました。

しげまさ子ども食堂での役割に着目してみると、「人と人がつながる機会を作る」、「周りと連携して活動をする」、「子どものエンパワメントの促進」など、ソーシャルワーカーの活動に似た点があると感じました。地域のため、子どものために“今”自分ができることを積極的に周りの人達に伝えて、主体的に動き、子どもの可能性を信じ続ける、そのまっすぐな首藤さんの姿と思いに、私は感銘を受けました。今後のしげまさ子ども食堂の活動と、子どもの「出会い」が私は楽しみです。この「出会い」で子どもの可能性は大きく広がるのではないかと思います。



写真左：厨房で調理する地域の高齢者のみなさん。写真右：学生の質問に答える首藤さん。

参考資料

- ・NPO 法人しげまさ子ども食堂-げんき広場- <https://shigemasak.com/>
- ・子ども・子育て支援者対象「子どもの声を聴く技術」研修プログラム(豊後大野市市民提案型協働のまちづくり活動推進事業 R5 採択)【2023年9月開講、申込み受付中 <https://onl.la/3DhPWmM>】
- ・日本財団「第三の居場所」事業(R4 採択)により「子ども第三の居場所しげまかげんき広場」を整備 http://nippon.zaidan.info/dantai/0622325/dantai_info.htm
- ・支援対象児童等見守り強化事業(R3 採択)によりお弁当配布 <https://www.mhlw.go.jp/content/000807112.pdf>
- ・しげまさ子ども食堂の他団体との連携を紹介(令和3年度第3回おいた子ども・子育て応援県民会議 事前資料 p9-10) <https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2137668.pdf>
- ・大分県地域を担うNPO 協働モデル創出事業(H29 採択) <https://www.pref.oita.jp/site/npo/kyoudoujireisyuu.html>
- ・おいた NPO 情報バンク おんぼ:地域が HOKORI「ひろがる子どもプロジェクト」プレゼンテーションと舞台パフォーマンス <https://www.onpo.jp/npo-works/cases/cacf4785-95d4-4c83-8576-ca547bb9a8a6>
- ・地域が HOKORI「ひろがる子どもプロジェクト」プレゼンテーション指導 TEDx Kumamoto <http://www.tedxkumamoto.com>